



江津湖



確かなものを 地球と未来に

一般社団法人 **日本建設業連合会 九州支部**

JFCC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS KYUSHU BRANCH OFFICE

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目3-22 産恵ビル3階 TEL 092-451-6244 FAX 092-481-0941

編集・発行 **総務広報委員会**

一般社団法人 日本建設業連合会 本部・各支部

本 部	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 TEL03-3552-3201 FAX03-3551-4954	
北海道支部	〒060-0004 札幌市中央区北四条西3丁目 TEL011-261-6243 FAX011-261-2528	北海道
東北支部	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3 TEL022-221-7810 FAX022-265-9465	宮城・青森・岩手・秋田・山形・福島
関東支部	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 TEL03-3552-3208 FAX03-3552-3206	東京・茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・山梨・長野
北陸支部	〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1 TEL025-285-8886 FAX025-285-8884	新潟・富山・石川
中部支部	〒460-0008 名古屋市中区栄3-28-21 TEL052-261-3808 FAX052-261-4363	愛知・岐阜・静岡・三重
関西支部	〒540-0031 大阪市中央区北浜東1-30 TEL06-6941-3658 FAX06-6942-4031	大阪・福井・滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山
中国支部	〒730-0051 広島市中区大手町2-11-15 TEL082-243-3017 FAX082-242-2380	広島・鳥取・島根・岡山・山口
四国支部	〒760-0026 高松市磨屋町6-4 TEL087-851-6969 FAX087-851-3176	香川・徳島・愛媛・高知
九州支部	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4-3-22 TEL092-451-6244 FAX092-481-0941	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

(一社)日本建設業連合会ホームページ
<https://www.nikkenren.com/>

日建連のホームページには、建設業に関する基本データ、戦後の建設業界の関連年表、全国の土木博物館一覧表、また、他では見られない迫力ある土木写真など、お役に立つ情報が満載です。ぜひ、アクセスしてみてください。

九州の建設業 [キーストン]

Keystone

vol.35
平成31年2月発行

Keystone / キーストン 要石(かなめ石)の意。社会資本の整備を通じて当団体が、豊かな未来づくりのかなめとなるようお願いをこめて。



熊本城(H30.12.22撮影):熊本城総合事務所提供

一般社団法人 日本建設業連合会 九州支部

Message

支部長ご挨拶



(一社)日本建設業連合会
九州支部 支部長

河野 健吾

〈鹿島建設(株) 常務執行役員 九州支店長〉

魅力ある建設産業を目指して

九州支部長の河野でございます。

本誌をご覧の皆様には当支部の事業活動につきまして、格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

建設業界では、2020年東京五輪・パラリンピックの開催を翌年に控え工事量がピークを迎える中、「働き方改革」の推進と「生産性革命」の更なる進化を通じて産業基盤の一層の強化に取り組まなければなりません。

日建連では、2017年に「働き方推進の基本方針」「時間外労働の適正化に向けた自主規制」「週休二日実現行動計画」「改めて労務賃金改善の推進」からなるいわゆる働き方改革4点セットを策定し、業界を挙げて取り組む姿勢を明確にしております。

週休二日の実現に向けては、2018年4月から、日建連会員企業の現場を対象に「統一土曜閉所運動」を展開しています。(建設関連14団体が共催)

このような状況の中、九州支部では「九州地方整備局様との意見交換会」や「けんせつ小町懇談・交流会」等を通じ労働環境の改善に取り組み、また、生産性の向上につきましても「建設技術講演会」や、各種講習会の開催などに取り組んでいるところです。

九州は、豪雨、地震、火山による自然災害が頻発している地域でもあります。熊本地震、九州北部豪雨、平成30年7月豪雨災害の際には建設業の社会的使命を果たすべく支援要請に対応いたしました。今後も将来発生が懸念されている南海トラフ巨大地震等に備え、より迅速な支援が可能となるよう一層の体制整備を図ってまいりたいと考えております。

建設業は、国民生活に欠かせない産業基盤となる社会資本整備の一翼を担い、また、災害時に地域を守るといふ、国民に不可欠な産業であると確信しております。今後も若者や女性にとって魅力ある建設産業づくりのために邁進し、建設業の社会的責任を果たせるよう活動を展開して参りたいと考えておりますので、皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

九州の建設業 [キーストン]

Keystone

vol.35
平成31年
2月発行

contents

九州ウォッチング

- 2 災害に強く 誇れる資産を次代につなぎ
夢にあふれる新たな熊本の創造に向けて
(熊本県)

日建連の取組み

- 8 週休二日の実現に向けて

けんせつ小町

いつもイキイキ! けんせつ小町!

- 10 株式会社熊谷組 九州支店
小松 花穂里さん
12 三井住友建設株式会社 九州支店
城島 和貴子さん



市民現場見学会

来て、見て、感じてみよう! 土木・建築の魅力

- 14 親子現場見学会 小石原川ダム建設工事
15 土木工事現場見学会 大分212号下屋形トンネル新設工事
16 土木の日見学会 小石原川ダム本体建設工事・導水施設建設工事
福岡空港国際線エプロン新設工事
17 鉄道工事見学会 JR長崎本線連続立体交差事業
(長崎高架長崎駅南BL新設他工事)

スペシャルイベント

- 18 2018建設業魅力発信セミナー・体験フェアin北九州
19 けんせつ小町現場見学会

Report

- 20 〈平成30年7月豪雨災害支援対応報告〉
日建連、災害復旧支援に対応!
21 インターンシップ講演会
22 ・九州建設技術フォーラム2018
・土木の日ファミリーフェスタ2018
23 ・鉄道建設工事技術講習会
・設計変更ガイドラインの活用促進に向けた講習会
24 ・災害防止総決起大会
・意見交換会
25 ・建設技術講演会
・安全環境委員会活動



Outline

- 26 団体の概要

Information

- 28 会員・役員名簿



災害に強く 誇れる資産を次代につなぎ 夢にあふれる 新たな熊本の創造に向けて



熊本県知事
蒲島 郁夫(かばしま いくお)
昭和22年1月28日生まれ

■略歴

最終学歴	ハーバード大学大学院修了(政治経済学博士)	平成20年6月	東京大学名誉教授
平成 3年4月	筑波大学社会工学系教授	平成24年4月	熊本県知事(2期)
平成 9年	東京大学大学院法学政治学専攻教授	平成28年4月	熊本県知事(3期)
平成20年4月	熊本県知事(1期)		



はじめに

未曾有の被害をもたらした熊本地震の発生から、今年4月で3年が経過します。県では、被災された方々の一日も早い生活再建と被災地の復旧・復興に向け、全力で取り組んでいます。

国内外からも、これまで、数多くの御支援をいただきました。全ての方々的心から感謝を申し上げます。

被災された方々の生活再建に向け、昨年中に、7団地112戸の災害公営住宅が完成し、現在、各地で整備、入居が進んでいます。また、甚大な被害を受けた益城町では、創造的復興のシンボルとして取り組んでいる熊本都市圏東部地域の軸となる県道熊本高森線の4車線化に向け、今年1月からモデル地区の整備に着手するなど、復旧・復興の成果が、目に見える形で表れています。

被災された方々の生活再建と、被災地の創造的復興なし

には、熊本の発展はありえません。傷ついた熊本を一日も早く復活させ、これまでの流れを取り戻し、更に発展させることが、蒲島県政3期目の最大の使命です。

このため、県政運営の基本方針となる「熊本復旧・復興4カ年戦略」では、「安心して希望に満ちた暮らしの創造」「未来へつなぐ資産の創造」「次代を担う力強い地域産業の創造」「世界とつながる新たな熊本の創造」という4つの方向性に沿った施策を掲げ、「災害に強く、誇れる資産を次代につなぎ、夢にあふれる新たな熊本の創造」を目指しています。

県民の皆様が、安全安心で、誇りに満ち、未来への夢と希望にあふれ、幸せを実感できる、そのような熊本の姿が実現できるように、この4カ年戦略のもと、市町村や企業、団体など県民の皆様と一丸となって、熊本の創造的復興に全力で取り組んで参ります。

熊本復旧・復興4カ年戦略

取組みの方向性と実現に向けた施策

1 安心して希望に満ちた暮らしの創造 ～安心・希望を叶える～

- 施策① 家族や地域の強い絆が息づく地域づくり
- 施策② 安全安心で暮らし学べる生活環境づくり
- 施策③ あらゆる状況に備える医療・福祉提供体制の構築

2 未来へつなぐ資産の創造 ～未来の礎を築く～

- 施策④ 災害に負けない基盤づくり
- 施策⑤ 地域の特性を活かした拠点・まち・観光地域づくり
- 施策⑥ くまもとの誇りの回復と宝の継承

3 次代を担う力強い地域産業の創造 ～地域の活力と雇用を再生する～

- 施策⑦ 競争力ある農林水産業の実現
- 施策⑧ 県経済を支える企業の再生・発展
- 施策⑨ 自然共生型産業を核としたオープンイノベーション機能の確立
- 施策⑩ 地域資源を活かす観光産業の革新・成長
- 施策⑪ 地域を支え次代を担う人材確保・育成

4 世界とつながる新たな熊本の創造 ～世界に挑み、世界を拓く～

- 施策⑫ 空港・港の機能向上によるアジアに開くゲートウェイ化
- 施策⑬ 世界と熊本をつなぐヒト・モノの流れの創出

基本目標

- ① 災害に強く県民が夢と誇りを持ち安心して暮らし続ける熊本の創造
- ② 熊本を支える力強い産業の復活・発展と、魅力ある雇用の創出
- ③ 熊本への人の流れの再生・加速化と、人材流出の抑制
- ④ 県民の結婚・出産・子育ての希望の実現

基本理念

～県民の総力を結集し、将来世代にわたる県民総幸福量を最大化する～

災害に強く 誇れる資産を次代につなぎ
夢にあふれる新たな熊本の創造に向けて

三 熊本県土木部の主要施策

1 安心で希望に満ちた暮らしの創造 ～安心・希望を叶える～

◀ 1 ▶ すまいの再建

熊本地震からの一日も早い被災者の生活再建のため、「くまもと型復興住宅」(自立再建住宅)の情報を提供するとともに、市町村と連携した住宅の耐震診断・耐震改修を促進するなど、「すまい」の再建を支援します。また、「あんしん」と「あたたかさ」と「ふれあい」のある熊本らしい災害公営住宅の建設支援など、県民が安心して住み続けられる住環境づくりを推進します。さらに、宅地の滑動崩落や液状化、亀裂・陥没、擁壁崩壊等の宅地被害が生じた地域において、宅地復旧などの取組みを支援します。



県が建設等を受託し完成した災害公営住宅(宇土市宮境目団地)／H30.9



被災後



復旧後

被災宅地の復旧(益城町)

2 未来へつなぐ資産の創造 ～未来の礎を築く～

◀ 1 ▶ 阿蘇へのアクセスルートの回復

地震により亀裂や崩落等が発生した道路や橋梁の早期復旧に取り組んでいます。中でも、阿蘇へのアクセスルートである国道57号北側復旧ルートと国道325号阿蘇大橋ルートは2020年度の開通に向け、県道熊本高森線俵山トンネルルートと村道栃の木～立野線長陽大橋ルートは恒久復旧に向け、国と連携して、被災した道路の早期機能回復に向けた取組みを進めます。



国道57号北側復旧ルート(阿蘇側坑口)／H30.12.18時点



提供:国土交通省

村道栃の木～立野線長陽大橋ルート開通／H29.8.27



提供:国土交通省

村道栃の木～立野線長陽大橋／H31.1.17時点

◀ 2 ▶ 被災地域の復興まちづくり

市街地に甚大な被害を受けた益城町においては、町の中心軸となる県道熊本高森線の4車線化及び町中心部の復興土地区画整理事業に取り組むなど、熊本都市圏東部地域の更なる発展を目指し、創造的復興のシンボルとなるまちづくりを支援します。また、被災した地域の活性化と災害に強いまちづくりを促進するため、被災市町村と連携しながら住民との協働による市街地の再生・再構築を支援します。



被災後



4車線化イメージ

県道熊本高森線4車線化(益城町)

◀ 3 ▶ 治水・土砂災害対策

震災等により甚大な被害を受けた熊本の社会基盤を再生するため、公共土木施設等の復旧に最優先で取り組んでいます。また、地震やその後の豪雨により、多数の土砂災害が発生したため、災害関連緊急事業を実施するとともに、甚大な被害が生じた阿蘇山(阿蘇カルデラ内)においては、国と連携して、集中的な土砂災害防止対策を進めます。

一方、全国各地で豪雨が頻発・激甚化しており、県民の生命・財産を守るため、河川改修や砂防堰堤などの整備を進めるとともに、警戒避難体制の強化や土砂災害特別警戒区域から安全な区域への住宅移転の支援を行うなど、ハード、ソフト一体となった総合防災対策を推進します。



被災後



復旧後

災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業(熊本市)



小倉遊水地(黒川)(阿蘇市)



砂防堰堤(一里山川)(阿蘇市)

三 熊本県土木部の主要施策

◀ 4 ▶ 道路ネットワークの整備

九州の中心に位置する熊本の地理的特性を踏まえ“すべての道はくまもとに通じる”という考えのもと、九州中央自動車道、南九州西回り自動車道、中九州横断道路、有明海沿岸道路(Ⅱ期)など、幹線道路ネットワークの整備を進めます。また、熊本市圏と県内主要都市を90分で結ぶ「90分構想」の実現に向けた熊本天草幹線道路の早期整備などに取り組みます。さらに、「九州を支える広域防災拠点構想」を踏まえ、南海トラフ巨大地震などの大規模災害発生時に本県と近隣県とが相互に受援・支援が可能となるような、「命の道」としての基幹道路ネットワークの整備を進めていきます。



◀ 5 ▶ 熊本駅周辺の整備

熊本駅を中心とする地域において、交通の円滑化や都市機能の集積のため、JR鹿児島本線・豊肥本線の高架化を行うとともに、熊本の陸の玄関口としての魅力とにぎわい創出に向け、熊本駅舎などの駅周辺整備に熊本市やJR九州と連携して取り組みます。



3 次代を担う力強い地域産業の創造 ~地域の活力と雇用を再生する~

◀ 1 ▶ 建設産業の振興

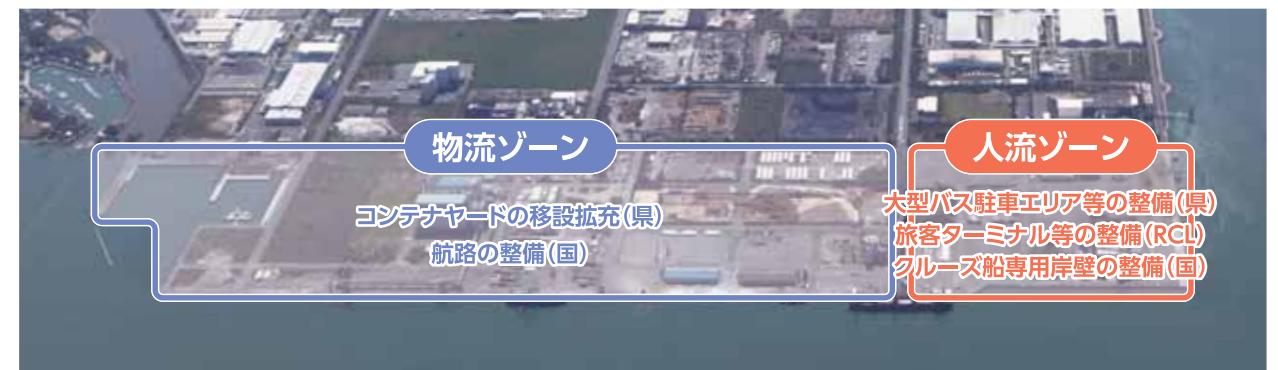
将来にわたる公共事業の適切な施工及び品質の確保や、地域の安全安心を支える建設産業の担い手の確保のため、建設産業の若手入職者の確保を図ることを目的に、高校生向け現場見学会・インターンシップ支援、建設業界ガイダンスの実施等、建設産業のイメージアップ戦略に取り組みます。また、建設関係の資格取得や従業員の処遇改善を支援することにより、技術者や技能者の育成や定着に取り組みます。



4 世界とつながる新たな熊本の創造 ~世界に挑み、世界を拓く~

◀ 1 ▶ 人流・物流の海外展開拠点の整備

八代港では、国によるクルーズ船専用岸壁(一部耐震強化岸壁)の整備、県では大型バス等の駐車エリアなどの整備、ロイヤルカリビアン・クルーズ社(RCL)による旅客ターミナルや「おもてなしゾーン」の整備など、2020年4月の供用開始に向け、官民が連携して魅力ある国際クルーズ拠点形成を推進します。また、八代港の物流機能の向上を図るため、コンテナヤードの移設拡充や関連施設の整備などに取り組んでいます。



八代港(人流ゾーン・物流ゾーン)

週休二日の実現に向けて



働き方を変える。建設業を変えていく。

これは、単なるスローガンではありません。必ず成し遂げるといふ宣言であり、約束でもあります。

小さな気づきや行動から、業界全体を変えていく。

一人ひとりの働き方を見直すことが、次世代の働き手を増やすことにもつながると思うから。

週休二日を。

誰もが笑顔で働ける未来を。すべての現場で実現していきます。

日建連の取組み

建設現場の週休二日は個々の企業の取組みでは困難な課題です。

誰もが笑顔で働ける未来に向け、日建連ではすべての現場での週休二日実現に向け取り組んでいきます。

週休二日実現行動計画

2017年12月22日

日建連は建設現場における週休二日を実現するための基本方針・具体的な方策である「週休二日実現行動計画」を策定しました。

行動計画の基本フレーム

- 1.本行動計画が目指す週休二日は、土曜日および日曜日の閉所とする。
- 2.本行動計画の対象事業所は、本社、支店等やすべての工事現場とする。
- 3.本行動計画の計画期間は、2017～2021年度の5年間とし、2019年度末までに4週6閉所以上、2021年度末までに4週8閉所の実現を目指す。
- 4.本行動計画の実施状況について、毎年度フォローアップを行う。

統一土曜閉所運動

2018年4月から「統一土曜閉所運動」を展開。

2018年4月から、日建連会員企業の建設現場を対象に「統一土曜閉所運動」を展開しています。
(建設関連14団体が共催)

- 2018年度：毎月第2土曜日の閉所
- 2019年度：毎月第2、第4土曜日の閉所

2021年度末を目標に建設現場の週休二日(全土日閉所)を推進します。



建築工事適正工期算定プログラム

週休二日を前提とした工期を自動算定。

建築工事における週休二日を前提とした工期を自動算定し、工程表を作成するプログラムを作成しました。

日建連「建築工事適正工期算定プログラム」の設定条件

- 休日設定：週休2日、祝日出勤
- 特別休暇：年末年始5日、夏季3日、ゴールデンウィーク3日
- 労働時間：1日8時間(残業なし)
- 雨天日：過去のデータをもとに雨天予想日を設定



週休二日推進ロゴマークについて

“健やかさ”を表すブルーのヘルメットでロゴ化。左右2本の帯でアテンションをつくりつつ、週休二日を実現して元気な現場を目指していくマークにしました。



ロゴマーク・グッズ

いつもイキイキ!

土木編

けんせつ小町!

「けんせつ小町」は建設業で活躍する女性の愛称です。

無事故・無災害を目標に
トンネル工事を順調に進め
土木技術者として
早く成長したい。



①坑口の前でメモを見ながら福田所長と打ち合わせ。②事務を担当する女性職員の浅井さん(右)・山内さん(左)と。③測量作業も大事な仕事のひとつ。④工事状況・切羽の状態をカメラで撮影。⑤撮影した切羽の写真をパソコンで整理する。

将来の目標として意識した 災害復興工事に従事する女性技術者。

小さい頃、自宅周辺を開発する土木技術者を見てカッコイイと思ったことが建設業に興味を持ったきっかけと言えます。日本は災害が多い国ですが、東日本大震災がメディアで取り上げられた時に現場監督という仕事を知り、またその際に女性の土木技術者を見て「目標」として意識するようになりました。その後土木を学べる大学へ進学し、測量の実技やダム・橋梁工事の現場見学などの学びを通じて知識を深めていきました。コンサルタントやゼネコンなどでインターンシップも体験。結果的に、2週間のインターンシップに加え、その後も長く面倒を見てくださった熊谷組へ就職することになりました。

入社して1年目ですが、半年間、熊本地震で崩壊した阿蘇大橋地区斜面の防災対策工事に携わった後、この「中尾山トンネル新設工事」の現場へ赴任しました。ここは11月末からトンネル掘削を開始しており、現在、切羽の担当として測量や掘削状態の撮影といった仕事にあたっています。

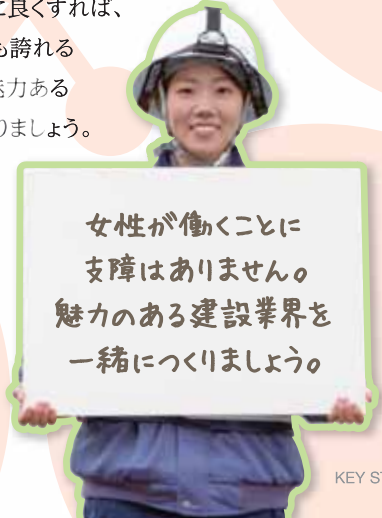
工事現場では毎日が勉強。 先輩方を手本に一人前の土木技術者へ。

この現場は機械だけで掘削を進めています。トンネル工事といえば「発破」のイメージでしたが、この現場に来て、山の地質などで掘削方法も変わるということを知りました。このように、私にとっては工事現場での毎日が勉強です。これからは先輩方の仕事を見ながら多くのことを吸収し、「自分一人で考えて工事に取り組める技術者」に成長したいと思っています。私は土木施工の経験が浅いうえにトンネル工事も初めて

です。工事も始まったばかりなので、仕事のやりがいはこれから感じるのではと考えています。ただ、切羽の写真を撮影する際には1m、2mと掘削が進んでいる状態が分かります。撮影で順調な工事の進行を実感するときには、満足感と喜びを覚えます。

多様な工事を経験しながら 女性技術者を増やす役目も担いたい。

工事の目標は、「無事故・無災害」でのトンネル貫通。その中で私は、現場を支える作業員さんが仕事をしやすい環境づくりを心掛けたいと思います。私自身の目標は、早く一人前の土木技術者になること。同時に、会社に女性の技術者を増やす役目も担いたいと思います。建設業に関心のある方に伝えたいことは、今、業界は働きやすい環境が整いつつあるということです。不安のある女性もいると思いますが、私は働くことに支障は感じません。事務所には更衣室やシャワー室があり、現場には快適トイレもあります。またワーク・ライフ・バランスに配慮してくださるので、仕事も休暇も充実しています。女性が働きやすい職場は、男性も働きやすい職場です。私たちが意見を伝えて環境をさらに良くすれば、建設業界は誰にとっても誇れる業界になるはず。魅力ある建設業界を一緒に作りましょう。



未来のけんせつ小町
MESSAGE

女性が働くことに
支障はありませんの
魅力のある建設業界を
一緒に作りましょう

株式会社熊谷組 九州支店
小松 花穂里さん
こまつ・かおり◎2018年入社。
福岡県出身。福岡大学工学部社会デザイン
工学科卒業。
熊本3号 中尾山トンネル新設工事の
切羽を担当。



- 現場情報
- 工事名称 熊本3号 中尾山トンネル新設工事
 - 工事場所 熊本県水俣市長野町地内
 - 施工企業 熊谷・あおみ・味岡特定建設工事共同企業体
 - 工法 NATM(機械掘削工法)
 - 工事目的 南九州西回り自動車道の内、熊本県豊北郡芦北町花岡から鹿児島県出水市下知歳に至る計画延長29.6kmが「芦北出水道路」で、この区間における中尾山トンネル(L=1,428m)の新設工事である。

いつもイキイキ!

建築編

けんせつ小町!

「けんせつ小町」は建設業で活躍する女性の愛称です。

丁寧に、そして確実に。
建築技術者を志す人々を
魅了する建物を造り続けたい。



三井住友建設株式会社 九州支店

城島 和貴子さん

じょうじま・わきこ◎2016年入社。
佐賀県出身。大分大学工学部福祉環境工学科
(2016年当時)卒業。
(仮称)センコー熊本九州支店大分PDセン
ター新築工事係員として、杭工事を担当。



現場情報

- 工事名称 (仮称)センコー熊本九州支店大分PDセンター新築工事
- 工事場所 大分県大分市大分流通業務団地内
- 施工企業 三井住友建設株式会社
- 建築面積 13,823.47㎡
- 建築高さ 15.125m
- 構造規模 鉄骨造
- 階 数 地上2階



①「究極品質」を掲げた現場事務所の前で渡辺所長と。②同僚職員の吉富さんと施工写真の確認。③3Dで作成の完成図をもとに工事を説明。④掘削深度などが表示されるジオマスターシステムを確認。⑤杭の位置や種類などを記した杭伏図を手にデスクワーク。

きっかけは幼い頃に目にした住宅建築。 様々な学びで深まった建築への思い。

建築に興味を持ったのは、小学生の頃、実家の木造戸建住宅の建築現場を「図面」を持って実際に歩いたことがきっかけです。図面を見ながら完成を心待ちにする気持ちが湧き上がったことが思い起こされます。また2次元の図面が3次元となって目の前に現れた住宅が、幼い私に「建築の素晴らしさ」を印象付けてくれました。

高校卒業後は専門学校を経て、建築コースのある大学へ編入。自主設計施工のプロジェクトに参加したり、建築家の講演を聞いたり、現場見学会に参加するなど様々な経験を積み重ねてきました。JR大分駅や大分県立美術館を見学した際のワクワク感も建築への憧れを育ててくれたように思います。

設計は悩むことが多かったのですが、設計が得意な同級生が間近にいて、その設計がとても魅力的だったことを覚えています。そこから「素敵な設計を実際に形にしたい」との気持ちが生まれ、また「建築現場で実際に建物が建っていく過程を感じたい」という思いも強くなり建築施工を職業に選びました。

杭工事に携わる充実した日々。 無事故・無災害は仕事の大切な目標。

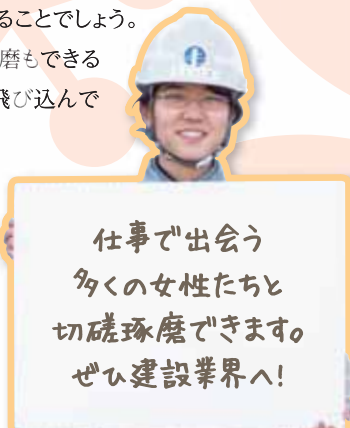
現在は、物流倉庫の「杭工事」に携わっており、現場では杭芯の確認や水平・鉛直精度の確認、施工写真を撮影しています。作業終了後は、杭業者から提出される施工データを確認し、「適切な施工がなされているか」「適切な施工記録が残しているか」を所長と共に承認しています。間もなく杭工事は完了し、仕事も基礎工事、躯体工事へと移っていく予定です。

建物を無事に竣工できたとき、そして工事の関係者から「また一緒に現場で働きましょう」と言って頂いたときが、やりがいと楽しさを感じる瞬間です。私が初めての竣工で感じたのは、達成感と共に「無事故・無災害」で終わられた安堵感でした。ですから、これからもまず一緒に働く方々の安全を第一に考えて仕事の段取りを行い、竣工を迎えられればと思っています。

関わってくださった人たちに 現場監督となった姿を見せたい。

私の担当した建物が、これから建築技術者を志す人の意欲を高める一因になってほしいですね。また、私が今も持ち続けている「初心を忘れることなく、丁寧に、確実に施工を行うことで信頼される技術者になる」ことを目標に、今後も仕事に取り組みたいです。そして、私に関わった全ての人へ現場監督として成長した姿を見せたいと思っています。

建設業に関心のある女性には、まず「業界へ入りやってみる」ことを勧めます。私自身、建設業界は想像よりずっと広い心で受け入れてくれました。今は女性も徐々に増えており、これから多くの出会いがあることでしょう。そんな女性同士、切磋琢磨もできるはず。ぜひ、建設業界へ飛び込んでみてください。



仕事で出会う
多くの女性たちと
切磋琢磨できます。
ぜひ建設業界へ!

親子現場見学会

公募による
見学会

小石原川ダム建設工事

■日時/平成30年7月24日 ■場所/福岡県朝倉市 ■施工企業(ダム本体建設)/鹿島・竹中土木・三井住友特定建設工事共同企業体



昼食はダムカレー

土木事業に親しみながら建設業の役割を知ってもらい、あわせて夏休みの自由研究の題材として取り上げてもらうことを目的に開催されている親子現場見学会。今回は真夏の暑い中、4家族11人の親子が参加しました。

参加者はまず工事事務所で、ダムの目的、種類や大きさ、また工事についての概要説明を受けました。その後は、マイクロバスに乗って川沿いを走り、江川ダム上流の建設現場へ移動。本体建設が進む現場に降り立った参加者は、工事状況の説明を聞きながらそのスケールに驚いているようでした。現場では次いで、ダム本体に使われるコア材やフィルター材などの説明の後、「透水試験」が行われました。水がどのくらいの時間で土に染み込んでいくかの試験は、まるで理科の実験のよう。熱心にメモを取る子どもたちが印象的でした。

試験が終わると、工事車両への体験乗車です。子どもたちは自分の何倍もの大きさの重ダンプに登って記念撮影!「工用ダンプの大きさがスゴイ。こんな大きなダンプは初めて見た」とは男子小学生の感想です。また、見学後の昼食に供されたダムカレーには子どもたちも大喜び。猛暑の中での見学会でしたが、学習とともに楽しい夏休みの思い出を作る時間になったようです。



ダムの盛立に用いた土を触って確認。



重ダンプに興奮気味の小学生たち。



見学MEMO 小石原川ダムは朝倉市の江川ダム上流に建設されている。岩石や土を積み上げてつくるロックフィルダムです。堤高約139m、堤頂長568m、総貯水容量約40,000,000m³の規模で、「洪水調節」「流水の正常な機能の維持」「新規利水」などの目的を有しています。また、ダムの下流には佐田川から小石原川までを結び約5kmの導水施設も造られています。

土木工事現場見学会/大分高専

大分212号下屋形トンネル新設工事

■日時/平成30年11月12日 ■場所/大分県中津市 ■施工企業/大林・新成特定建設工事共同企業体



大分工業高等専門学校都市・環境工学科の4年生たち37人が、掘削の進んでいる「大分212号下屋形トンネル新設工事」の現場を見学に訪れました。

この日は見学の前に、発注者、コンサルタント、施工企業からそれぞれの仕事の概要や魅力についての説明を受けたほか、働きやすい現場を目指した「働き方改革」の取り組みなどの話も聞いて社会資本整備に貢献しながら改革を進める建設業への理解を深めました。

昼食をとった後、学生たちはバスで坑口まで移動してよいよトンネルの中へ。約1.2km先のトンネル最先端場所・切羽を目指し、養生シートや建設機械、作業の状況などの説明を受けながらトンネルを進んでいきます。なんと途中では「発破」も行われ、全員がトンネル内で爆発音を聞くという貴重な体験も。学生たちは、普段は入ることのない工事中のトンネル内部へ足を踏み入れたことも手伝って、現場の雰囲気や工事の状況を興味津々の様子で体感・見学していました。終了後には、学生からは「発破音は思ったよりも小さかった」、「トンネルの掘り方がいろいろあることが分かり勉強になった」、「将来の仕事を考えるきっかけになった」などの声が聞かれました。



探検隊の気分でいよいよトンネルの中へ。



見学前に事業・工事概要などを説明。



見学MEMO 東九州道と九州横断自動車道とを連結することで、地域活性化の期待が高まる中津日田道路。「三光本耶馬溪道路」はその一部を構成する。大分県中津市三光から中津市耶馬溪落合を結び延長12.8kmの地域高規格道路であり、「大分212号下屋形トンネル」は、国道212号三光本耶馬溪道路事業の一環として新設される施工延長1,335mのトンネルです。

土木の日見学会

公募による見学会

小石原川ダム本体建設工事・導水施設建設工事 福岡空港国際線エプロン新設工事

■日時／平成30年11月14日 ■場所／〈小石原川ダム〉福岡県朝倉市 〈福岡空港〉福岡県福岡市
■施工企業／〈小石原川ダム〉本体…鹿島・竹中土木・三井住友特定建設工事共同企業体、導水施設…大成建設株式会社
〈福岡空港国際線エプロン〉鹿島道路株式会社



毎年11月恒例の土木学会西部支部と日建連九州支部の共催による「土木の日見学会」。今回は56名の参加者が2カ所の工事現場を訪問しました。

最初の見学は「小石原川ダムの本体工事と導水施設工事」の現場です。参加者は、事務所で発注者や施工者によるダム工事の概要や進捗状況等の説明を聞いた後、3台のバスでグループごとに現場を訪問。本体建設の現場では見学用パネルを見ながらロック材やフィルター材、コア材の役割のほか、重ダンプ、自動化施工、環境保全の取組みなどについての説明を受けました。また導水施設の工事現場では、シールド工法による掘削などの話を伺いました。

見学が終了すると昼食。その後の休憩を挟んで福岡空港へと向かい、空港敷地内で行われている「国際線エプロン新設工事」の現場を見学しました。参加者は工事事務所でアスファルト舗装やコンクリート舗装の違いなど施工に伴う様々な話を聞いた後、実際のエプロン新設工事を見学。飛行機が滑走路で離着陸する様子にも目を向けながら、利便性の高くなった新しい空港をイメージしているようでした。参加者は普段立ち入れない工事現場を目にしたが様々な知識を得たこともあって、記憶に残る一日となったようでした。



導水施設の説明に耳を傾ける参加者。



空港内でエプロン新設工事も見学。



小石原川ダムは、江川ダムの上流に建設されている洪水調節などを目的とした総貯水容量約40,000,000m³のロックフィルダム。佐田川から小石原川までの約5kmの導水施設も造られています。福岡空港は東アジア・東南アジアを結ぶゲートウェイとして機能しており、現在、混雑解消に向けた国内線ターミナル再編事業、滑走路増設事業などが行われています。

鉄道工事見学会／大村工業高校

JR長崎本線連続立体交差事業 (長崎高架長崎駅南BL新設他工事)

■日時／平成30年12月7日 ■場所／長崎県長崎市 ■施工企業／大成・九鉄・西海特定建設工事共同企業体



JR長崎駅周辺では今「JR長崎本線連続立体交差事業」が行われており、この工事現場の見学に長崎県立大村工業高等学校の建設工業科2年の先生と生徒たち43名がJR長崎支社を訪れました。

見学に先立ちJR九州の工事担当者が、保線・土木・建築などの仕事内容を最近の取組みを交えて解説。またJR九州全体の会社概要、そして進行している連続立体交差事業や九州新幹線西九州ルート事業、長崎駅周辺整備事業なども詳しく説明しました。生徒たちはその後、高架化が進む工事現場へ足を運び、新しくなる在来線駅部の鉄筋工事やクレーンが稼働する様子を見学。次いで在来線の高架部へ移動し、在来線の高架工事や新幹線の高架工事の様子、また新しい県庁など周囲の景色もウォッチングしました。

現場見学の後は、質疑応答を経て見学会は終了。最後には、「大きな工事現場だけど、小さな部分に気を配って工事しているのが分かり、またこうした仕事によって、私たちが安心して鉄道を利用できるのだと思いました。今日の経験を、将来の進路選択に生かしたいです」と生徒代表が挨拶。約2時間の見学会でしたが、生徒たちにとっては有意義な学習の時間となりました。



高架化線路から変わりゆく街をウォッチング。



工事や会社の概要説明を受ける生徒たち。



JR長崎駅周辺は、市街地分断・踏切解消を目指す「JR長崎本線連続立体交差事業」、低・未利用地の有効活用を目指す「土地区画整理事業」、全国に繋がる高速交通ネットワークの整備を目指す「九州新幹線西九州ルート事業」の3事業が進展しています。そのうちのJR長崎本線連続立体交差事業は、松山町から尾上町の2,480mで駅や線路の高架化を図るものです。

建設業の担い手候補たちへ、仕事のやりがいや魅力を発信!



2018建設業 魅力発信セミナー・ 体験フェアin北九州

- 日時/平成30年10月25日
- 場所/福岡県北九州市
- 主催/九州竹和会
竹中工務店北九州地区安全衛生協力会
北九州FM会
- 共催/竹中工務店九州支店、日建連九州支部
- 後援/建設専門工事業雇用促進・労働改善協議会

建築が進む現場で 作業を見る、聞く、体験する!

JR小倉駅のそばの「小倉駅南口東地区再開発作業所」を会場に実施された、高校生対象の「2018建設業魅力発信セミナー・体験フェアin北九州」。担い手の確保・育成事業の一環として、竹中工務店の協力会社で構成する「九州竹和会」などが取り組んでいるもので、今回、日建連九州支部は共催というかたちで支援しました。当日は、県内2高校の2年生約100人が「セミナー会場」に集合。最初に行われたセミナーでは建設業界の現状、さらには建築が進む小倉駅南口東地区再開発の工事についての説明などがありました。

セミナーが終わると、2階の体験・展示会場へ移動。「足場組体験」「鉄筋組立体験」「鉄骨ボルト締め体験」など、18ブースで建築に関わる工事作業を実際に体験しました。また体験の合間に、グループに分かれて建築工事現場も見学。エレベーターで20階へ昇ってPC構造の説明を受けたり、また下の階の住居スペースでは床やユニットバスなどを、さらには階と階の間に設けられた免震装置を見学したりと様々な知識を吸収しました。「圧接などいろんな体験ができたのが良かった。建築現場の監督になるという思いが強くなりました」とは建築科2年の女子生徒。約4時間のセミナー・フェアは、高校生たちの夢が広がる良い機会になりました。

- 1 高校生たち約100人が会場に集合。
- 2 作業体験に見入る女子生徒たち。
- 3 実際に機械を使っている圧接体験も。
- 4 CADを用いた製図に挑戦。



女性がしっかり活躍できるこれからの建設業をアピール。

けんせつ小町 現場見学会

- 日時/平成30年11月17日
- 場所/福岡県福岡市
- 主催/日建連九州支部
- 協力/鹿島建設株式会社

けんせつ小町たちと 現場を見る、今と未来を語る。

日建連九州支部では今回初となる、女子学生を対象にした「けんせつ小町現場見学会」を行いました。この見学会は建設業が国民の安全安心、生活の利便性の向上に貢献していることに加え、夢とやりがいがあり、また誇りの持てる職業であることを理解してもらうことが目的。また、新たな担い手づくりに寄与するテーマも有しています。当日は、大学・専門学校の女子学生12人が参加。日建連けんせつ小町部会の部会員と鹿島建設のけんせつ小町たちがサポートしました。

まずは工事事務所に集まった女子学生へ、鹿島建設のけんせつ小町たちが自己紹介。その後、会社概要や現場概要の説明などが行われました。次いで、「(仮称)九州フィナンシャルグループ福岡ビル新築工事」の現場へ。女子学生たちは地下、2階、3階を移動し、独特の雰囲気を感じながら特徴的な工法、鉄筋や柱などの説明に耳を傾けていました。見学の後は事務所へ戻り、3グループに分かれての懇談会です。「現場で大変なこと」「仕事の喜び」「海外の仕事」など、けんせつ小町たちのリアルな仕事内容や現場の状況などの話を聞き、また様々な質問を投げかけていました。約2時間半の会でしたが、建設業界の世界を見聞きした女子学生たちは、将来の仕事としてのイメージをそれぞれが思い描いているようでした。

- 1 鹿島建設のけんせつ小町が概要を説明。
- 2 建築現場の1階で、全員笑顔の記念撮影。
- 3 意見を交わす女子学生とけんせつ小町たち。



参加者からひとこと

建築現場の見学は初めての体験でした。工事の説明も聞けたので、教科書だけではイメージできない部分も理解できて良かったです。また労働環境も徐々に改善されているとのこと、働きやすさも感じ取れたのでますます建設業界で働く意欲が高まりました。(専門学校生2年)

そのほかにも… (アンケートより)

- 授業で聞いたことがより理解できた。
- 構造や柱などを細かく知ることができた。
- 実際に働く方の話が聞けて将来の参考になった。
- 女性同士なので質問もしやすかった。 など



平成30年7月豪雨災害支援対応報告

日建連、災害復旧支援に対応!



※写真提供:九州地方整備局

大雨の状況

7月5日(木曜日)から7月7日(土曜日)にかけて、梅雨前線の活発な活動により九州の広範囲に強い雨域が発生し、多くの雨量観測所で観測史上最多の日雨量を観測する大雨となりました。

広域にわたる大雨の結果、九州内20の一級水系のうち、8水系で氾濫危険水位を超過し、遠賀川、筑後川水系では9つの水位観測所で観測史上最高位を観測。その結果、九州地方整備局管内で、計画高水位超過や土砂崩落により通行止めが多数発生しました。

災害対応

日建連九州支部では、7月6日に支部災害対策本部を立ち上げ、NEXCO西日本、福岡北九州都市高速道路公社から災害協定に基づき応急復旧工事、資材調達等の支援を実施しました。

- 《応急復旧工事》 ■NEXCO西日本関係…2件 ■福岡北九州都市高速道路公社関係…2件
- 《資材調達》 ■大型土嚢袋…328袋

東九州自動車道における土砂崩落応急復旧工事(施工:株大林組)

〔豊前側〕



〔北九州側〕



インターンシップ講演会

■主催/長崎大学 ■日時/平成30年12月23日 ■場所/長崎大学



平成30年度インターンシップ講演会にけんせつ小町らを派遣!

日建連九州支部は毎年、長崎大学工学部工学科社会環境デザイン工学コースの要請によって会員企業から社員を派遣し、「インターンシップ講演会」で講演を行っています。

これは、就職を控える学部学生および大学院生に対し、土木事業に携わる建設業者やコンサルタント業者、公務員の「生の声」を届け、進路決定に役立ててもらうために企画されたイベントです。

平成30年度は竹中工務店九州支店から、けんせつ小町を含む2名が講師として派遣され、建設業界に関心を持つ学生たちに建設業や自社業務の紹介、また仕事のやりがいなどについて説明しました。

参加者の声

今回の講演会では、私たちの先輩方がどんな環境でどのような仕事をしているか、わかりやすく説明してくださった。若い方や女性の方も数人いて、私たちがすると、土木の世界を身近に感じることができたのではないかと思います。

竹中工務店のお話の中で、「竣工した建物を作品と呼んでいる」とあったが、これに関して私は、この人たちは自分の仕事に誇りを持ち、なおかつ自分たちが作ったものに対して愛を持っていて、大切にしていることがすごく伝わってきた。私は、竹中工務店の人たちのその意識が素晴らしいと思った。そして、竹中工務店の人たちは、自分たちが楽しみながら仕事をしているんだろうなと思った。やはり、何事も楽しくなければ続けていくことは難しいし、楽しければずっと続けていけると思うので、自分が楽しめる仕事を見つけない。また、仕事の魅力として、「多くの人(プロフェッショナル)が密にかかわって1つの建物を造り上げ、竣工時の感動はより一層大きい」と話していた。たしかに、仕事を楽しく上で大切なのが、良い人間関係をつくることであると思う。何をやるかも大切だが、それ以上に、誰と、どういう風に仕事をやるのかの方が大切であると思える。より良い人間関係を築くために、今のうちから努力したい。

日本工営のお話の中では、「コミュニケーション能力があれば、入社しても何とでもなる」とあった。やはり大切なのが人間関係。仕事は入社してから努力して覚えればよいし、まずはコミュニケーション能力をしっかり身につけることが大事になる。私はそれがあまり得意な方ではないため、残りの大学生活ではそこが課題である。また、「知識を知恵として活用すべき」とも話していた。ただ勉強して知識を得るだけでなく、それを自分なりに次のステップに生かすことが大切なんだなと思った。

今日の講演会で将来に対する意識が深まった。やはり自分で調べたりするよりも、実際に土木の世界で働く人から話を聞いた方が100倍わかりやすいし、自分の中に入ってくるものも違う。あと1年と少し、自分と向き合う貴重な時間になりたいと思う。

工学部工学科社会環境デザイン工学コース/田中 修平

今回のインターンシップ講演会を通して自分の就職活動に対する意識が変わったと思う。夏休みにゼネコン、建設コンサルタントのインターンに参加したが、言葉だけで聞いたゼネコン、建設コンサルタントとは全く違った仕事内容、雰囲気だった。今回の講演会では、インターンやキャリアセミナーを通して考えたことや思ったことを含めての質問ができたのですごく良い機会になったと思う。特に竹中工務店、復建調査設計、長崎県庁土木課の女性社員の方々にたくさん質問することができたので良かったと思う。特にゼネコンの方に指示を出す場合、話を聞いてくれるのか」という疑問を解消することができたことが一番今回の講話を聞いて良かったことだと思う。

土木の仕事にはきつい・汚い・危険の3Kのイメージがありネガティブなことを連想されることが多いように感じるが、私が土木の仕事に就きたいと思ったのは、豪雨や台風、地震などの自然災害から町や人々の暮らしを守る仕事をしたかったからだ。そうした防災も含め、人々が生活をする上で必ず必要になる土木の仕事に就きたいと思う。

また、今回のインターンシップ講演会を通してもっと日々の学校生活や自分の就職に対する考えを変えなければいけないということを感じた。もっと、あと半年後には就職活動が始まるという自覚を持って企業研究や授業に真剣に取り組んでいきたいと思う。

工学部工学科社会環境デザイン工学コース/山口 真歩

九州建設技術フォーラム2018

■主催/九州建設技術フォーラム実行委員会 ■日時/平成30年10月9日・10日 ■場所/福岡国際会議場



九州建設技術フォーラムは、新しい建設技術の開発・活用・普及促進をより効果的に図るために、「産」「学」「官」が新技術の開発・活用の取り組みについて情報を発信・交換するイベントです。技術情報のプレゼンテーションや展示、新技術相談などによって連携を深め、九州における建設技術の更なる発展を目指して開催されています。平成30年度は「変わらない品質を、これから先も」というキャッチフレーズのもと基調講演のほか、ブース展示、プレゼンテーション、ポスターセッション、新技術及びi-Construction相談などを実施。日建連会員企業をはじめとする様々な建設企業に加え、行政、工業系の学校、研究機関などから約3,000人が来場し、最新の建設技術情報やリクルート情報を収集しました。

日建連は「リクルーティングプレゼンテーション」で、大学生・専門学校生・高校生たちへ日建連を紹介したほか、ゼネコンの意味、建設業界の構造などを説明。また、建設現場の映像も見せながら建設業の魅力などをアピールしました。

土木の日ファミリーフェスタ2018



■主催/福岡地区土木の日実行委員会 ■日時/平成30年10月14日 ■場所/海の中道海浜公園(大芝生広場)



パネル展示で災害復旧支援対応などの諸活動をアピール!

「土木の日ファミリーフェスタ」は、土木事業を身近に感じながら理解して頂くため11月18日の「土木の日」にちなんで開催されるイベントです。平成30年度は「体験しよう!土木のちから!」をキャッチフレーズに実施。イベントエリアには小型建設機械乗車体験コーナー、高速道路パトロールカー展示、土やコンクリートで遊ぼう、モルタルオブジェ作成、タブレットでのゲーム、お菓子つかみ取り、土木を学ぶパネル展示などのコーナーが並びました。日建連は独自のブースで災害復旧活動をPR。平成28年の熊本地震支援対応、平成29年の九州北部豪雨支援対応、平成30年の豪雨災害支援対応などの工事写真をパネルで紹介しました。



なぜ11月18日は土木の日なの?

なぜ11月18日になったかというと、2つの理由があります。1つは、土木という漢字をそれぞれ分解すると「土は十と一」「木は十と八」になるからです。もう1つは、社団法人「土木学会」の前身にあたる「工学会」の創立日が、明治12年11月18日なので、昭和62年にこの日を「土木の日」と決めました。

鉄道建設工事技術講習会

■主催/日建連九州支部・鉄道建設本部 ■日時/平成30年9月11日 ■場所/福岡県中小企業振興センター



鉄道は、大量・高速・定時性を有する安全安心な輸送手段として、地球環境保全やエネルギー問題への対処、少子高齢化への対応等の観点から、21世紀においても促進整備への期待は大きいものがあります。しかし熟練技術者の大量退職時代の到来、鉄道工事量減少などもあって必ずしも鉄道工事経験者を鉄道工事現場に配置できる状況にありません。また鉄道工事を取り巻く環境も工期・工費・品質確保、施工環境ともに厳しさを増すなか、施工者側のみならず監督側も現場管理業務が多様化・多忙化し、現場業務の鉄道建設固有技術継承も希薄化の傾向にあります。

そこで日建連鉄道建設本部では、将来にわたって健全な鉄道構造物を提供するためには鉄道特有の建設技術に精通した技術者育成が不可欠という認識のもと、「鉄道建設工事技術講習会」を平成30年度も開催しました。今回、九州会場は更新受講者と一般受講者の約100人が参加。日建連の名越常務執行役の挨拶に続き、3つのテーマで講習が行われました。

設計変更ガイドラインの活用促進に向けた講習会

■主催/日建連九州支部 ■日時/平成30年10月30日 ■場所/福岡国際会議場



日建連九州支部では、施工現場の週休二日を推進し、また円滑な施工を確保することを目的に、改正品確法に基づいて改訂された、設計変更ガイドラインのさらなる周知の徹底と活用促進を目指した「設計変更ガイドラインの活用促進に向けた講習会」を開催しました。

冒頭の挨拶では、河野健吾支部長が「日建連は、週休二日の実現と建設キャリアアップシステムの普及にチャレンジしている。施工現場の週休二日を推進し、円滑な施工を確保するためには、適切な工期の設定や工程管理はもちろんのこと、設計変更等に係る事象の発生や不測の事態に備え、受発注者双方が設計変更ガイドラインの内容を十分に理解し、適切な対応を講じていくことが極めて重要」と述べられました。

その後、九州地方整備局技術調整管理官・坂元浩二氏が「建設業を取り巻く課題と今後の取組について」を、次いで、日建連専務理事の木村昌司氏が「適切な設計変更の確実な履行に向けて-設計変更ガイドラインの活用-」の講演を行いました。

災害防止総決起大会

■主催／日建連九州支部安全環境委員会 ■後援／福岡労働局 ■日時／平成30年11月6日 ■場所／福岡国際会議場



建設業における労働災害は長期的には減少傾向にありますが、死亡者数は依然として全産業の中で占める割合が高く、憂慮すべき状況は変わりません。そこで九州支部では年末年始の災害防止活動として11月に「災害防止総決起大会」を福岡労働局の後援のもとで開催し、労働災害の撲滅を期しています。平成30年度は河野健吾支部長、福岡労働局労働基準部安全課の小野裕己課長の挨拶に続き3講演が行われました。

まずは福岡労働局労働基準部安全課の植村浩一郎地方産業安全専門官による「建設業における労働災害の防止について」から開始。次いで九州地方整備局企画部の西保幸環境調整官が「工事事故の現況と安全対策について」の講演を、そして日本気象協会九州支社・気象予報士の松井渉さんが「南海トラフ地震の被害想定～異常気象時における避難行動～」と題した講演を行いました。なお最後に、尾崎光義安全環境委員会第1小委員長が、引田守安全環境委員会委員長へ決意表明を読み上げて大会は終了しました。

意見交換会

■主催／日建連九州支部 ■日時／平成30年11月27日 ■場所／第三博多借成ビル



毎年、九州支部では国土交通省九州地方整備局と「現場における諸課題に関する意見交換会」を開催しています。平成30年度は24人が出席して意見交換が行われました。冒頭で河野健吾支部長が、「日建連では今年度、週休二日制の実現と建設キャリアアップシステムの普及を、命運をかけて取り組んでおり、週休二日制普及は今日のテーマでもある。この意見交換の機会を通じて、九州地方整備局とのパートナーシップをさらに強化したい」と力強く挨拶されました。

次いで提案テーマとして、九州支部の積算資材委員会が「労働環境について」「生産性の向上について」「業務の効率化について」「設計変更・工事一時中止について」「女性活躍推進について」などを、また、契約委員会が「総合評価について」「週休二日制の推進について」「生産性の向上について」を説明しました。九州地方整備局は、これらの提案テーマへ回答。その後は「自由討議」なども行われ、約2時間にわたり活発な意見が交換されました。

建設技術講演会

■主催／日建連九州支部 ■日時／平成30年12月13日 ■場所／福岡国際会議場



建設技術講演会は、建設業に関する技術の進歩と経営の改善を推進し国民生活と産業活動基盤の充実に寄与することを目的に、建設業に関する専門的知識の習得および研鑽を図るために開催されています。

平成30年度は河野健吾支部長の「災害時の緊急対応は建設業の社会的使命。今後も迅速な支援が可能となるよう体制を見直したい」という挨拶に続いて、3講演を実施。まずは九州地方整備局の藤巻浩之企画部長が、「九州地整における働き方改革・生産性向上の取り組み～新3Kを目指して～」という主題の講演を、次いで日建連環境委員会生物多様性部WG1のリーダーを務める吉川聡雄氏が、「日建連・生物多様性行動指針・解説と具体事例について」と題した講演を行いました。

最後は熊本城総合事務所熊本城調査研究センターの金田一精主任が担当。「熊本城の歴史と地震被害・復旧工事」と題し、地震に伴う熊本城の被害状況、復旧の基本方針・基本計画、復旧状況などを報告しました。

安全環境委員会活動

現場点検の実施状況および講習会の開催状況

〈平成30年度 安全環境委員会の主要活動〉

部会別区分	現場点検			講習会受講者
交通	2回	5現場	10名	1回 123名
地下埋	0回	0現場	0名	1回 63名
火薬類	2回	3現場	8名	1回 30名
環境	2回	8現場	16名	1回 63名
計	6回	16現場	34名	4回 279名



団体の概要

■一般社団法人日本建設業連合会

■設立

(社)日本建設業団体連合会(旧日建連)、(社)日本土木工業協会(土工協)、(社)建築業協会(建築協)の三団体は、平成23年4月1日に合併し、(社)日本建設業連合会(日建連)として新たに発足しました。また、平成25年4月に一般社団法人に移行しました。建設業界が大きな転換期を迎えつつある今、建設業団体としての機能を一層強化・拡充し、建設業の発展に向けた活動をより強力に展開してまいります。

■目的

日本建設業連合会(日建連)は、日本を代表する総合建設業者を主な構成員とする団体です。日建連は、建設業に係る諸制度をはじめ、建設産業における内外の基本的な諸課題の解決に取り組むとともに、建設業に関する技術の進歩と経営の改善を推進することにより、わが国の建設産業界の健全な発展を図り、もって国民生活と産業活動の充実に寄与すること、を目的としています。

■会員

日建連は、建設業界の連合組織であり、正会員である団体会員と法人会員、および特別会員によって構成されています。

- 法人会員…一定規模以上の総合建設業者
- 団体会員…主に総合建設業者で構成する事業者団体

さらに、日本国内で事業活動を行っている外国の建設業者及び、建設業に密接に関連する事業を行っている法人を対象にした特別会員制度も設けています。

平成31年2月1日現在の会員数は、正会員141社・5団体、特別会員7社です。

■役員

総会において理事、監事が選任されます。任期はそれぞれ2年となっています。協会活動の円滑な運営を図るため、理事会の決議により会長、副会長、事務総長、専務理事、常務理事を置いています。

■機関

事業を推進するため、次の機関を設置しています。

- ①総会
定時、臨時の2種類があり、定時総会は毎年4月に開催されます。事業計画、収支予算、役員を選任など協会活動の基本的な諸事項について審議、決定します。
- ②理事会
通常、毎月1回開催され、総会に付議する事項や総会の議決を要しない会務に関する事項を審議、決定します。
- ③事業本部および委員会
協会活動の中心となる調査研究組織であり、2つの事業本部と2つの特別委員会、28の委員会を設けています。委員は会員各社から募り、建設業に係る諸問題について調査研究活動を行っています。
- ④支部
全国9地区に支部を設置しています。支部には、支部長、副支部長、運営委員、監査委員を置き、本部の活動方針に基づく活動を行っています。
- ⑤事務局
本部、支部それぞれに事務局を設置しています。

■九州支部の概要

■設立

当支部は、本部の合併により、平成23年4月1日から(社)日本建設業連合会(日建連)の九州支部となりました。支部の活動は、引き続き従来どおりの活動を行うとともに、3団体合併の主旨に則り、建設産業全体の健全な発展へ向けた諸活動をより強力に展開してまいります。

■会員

支部の会員は「九州地区において本社・支店等を有し建設業を営業者で、かつ、本部会員である者」に限られています。

また、九州地区に本社・支店等がなくても、本部正会員であれば、支部の会員になることができます。

したがって企業規模・技術水準・社会的信用などあらゆる面で真に業界を代表するに足る企業によって構成されている団体です。

会員数は平成31年2月1日現在で59社を数えています。

■役員

支部長は総会において、支部長候補者の了承後、会長から任命されます。副支部長は総会で選任された運営委員の互選により支部長が任命します。副支部長は9名を置いています。監査委員は総会において推薦者の了承後監事が指名します。任期はそれぞれ2年となっています。

■事業

本支部は次のような事業を行っています。

- ①災害対策への対応
- ②公共工事の円滑な実施
- ③安全・環境対策等の推進
- ④請負契約制度の改善及び積算の適正化と資材対策の推進
- ⑤技術開発の推進
- ⑥電力施設建設事業、鉄道建設事業、海洋開発建設事業の推進
- ⑦広報活動の推進

■委員会

支部活動の中心となる調査研究機関として、広く会員から委員を募り、総務広報委員会、契約委員会、積算資材委員会、電力委員会、鉄道委員会、安全環境委員会、建築委員会を設置しています。

■沖縄支所

沖縄地区での活動を実施するため、平成8年6月から沖縄に支所を置いています。支所に所属する会員数は42社を有しています。

一般社団法人日本建設業連合会九州支部会員

(五十音順 平成31年2月1日現在59社)

ア

アイサワ工業(株)九州支店
青木あすなろ建設(株)九州支店
あおみ建設(株)九州支店
(株)浅川組九州営業所
(株)新井組九州営業所
(株)安藤・間九州支店

イ

岩田地崎建設(株)九州支店

ウ

梅林建設(株)

オ

大木建設(株)九州支店
(株)大林組九州支店
(株)大本組九州支店
(株)奥村組九州支店
オリエンタル白石(株)福岡支店

カ

鹿島建設(株)九州支店
鹿島道路(株)九州支店
株木建設(株)九州支店

キ

九鉄工業(株)

ク

(株)熊谷組九州支店

コ

広成建設(株)九州支店
(株)鴻池組九州支店
五洋建設(株)九州支店

サ

佐藤工業(株)九州支店
三軌建設(株)
三幸建設工業(株)九州支店

シ

清水建設(株)九州支店
ショーボンド建設(株)九州支店

セ

西武建設(株)九州支店
(株)銭高組九州支店

タ

大成建設(株)九州支店
大成ロテック(株)九州支店
大日本土木(株)九州支店
大豊建設(株)九州支店
(株)竹中工務店九州支店
(株)竹中土木九州支店

テ

鉄建建設(株)九州支店

ト

東亜建設工業(株)九州支店
東急建設(株)九州支店
東洋建設(株)九州支店
戸田建設(株)九州支店
飛鳥建設(株)九州支店

ニ

西松建設(株)九州支店
日特建設(株)九州支店
日本国土開発(株)九州支店

ノ

(株)ノバック九州支店

ヒ

(株)ピーエス三菱九州支店

フ

(株)福田組九州支店
(株)フジタ九州支店
(株)不動テトラ九州支店

ホ

(株)本間組九州支店

マ

前田建設工業(株)九州支店
松尾建設(株)

ミ

三井住友建設(株)九州支店
みらい建設工業(株)九州支店

ム

村本建設(株)九州支店

モ

(株)森本組九州支店

ヨ

(株)吉田組九州支店
寄神建設(株)九州支店

リ

りんかい日産建設(株)九州支店

ワ

若築建設(株)九州支店

役員

(平成31年2月1日付)

支部長	鹿島建設(株)九州支店長 河野 健吾	副支部長	清水建設(株)九州支店長 堤 義人
副支部長	西松建設(株)九州支社長 吉田 卓生	"	(株)安藤・間九州支店長 大西 亮
"	梅林建設(株)社長 梅林 秀伍	"	鉄建建設(株)九州支店長 魚谷 和亮
"	大成建設(株)九州支店長 寺本 剛啓	"	(株)大林組九州支店長 引田 守
"	(株)熊谷組九州支店長 梶山 雅生	"	(株)鴻池組九州支店長 興 柁 博己

運営委員	青木あすなろ建設(株)九州支店長 福本 聖史	運営委員	日本国土開発(株)九州支店長 江藤 伸二
"	(株)奥村組九州支店長 大角 透	"	(株)フジタ九州支店長 岡野 利喜造
"	九鉄工業(株)社長 古賀 徹志	"	前田建設工業(株)九州支店長 永重 雅守
"	五洋建設(株)九州支店長 下石 誠	"	松尾建設(株)社長 松尾 哲吾
"	佐藤工業(株)九州支店長 勝山 正昭	"	三井住友建設(株)九州支店長 柴田 雅俊
"	(株)銭高組九州支店長 曾我部 修一	監査委員	大日本土木(株)九州支店長 中山 努
"	(株)竹中土木九州支店長 松本 和豊	"	東急建設(株)九州支店長 久田 浩司
"	戸田建設(株)九州支店長 窪田 浩一	"	(株)不動テトラ九州支店長 濱野 尚則
"	飛鳥建設(株)九州支店長 曾我部 真也		